

News Letter

第7回失業と健康研究会レポート

「失業と健康に関する研究の動向」石竹達也・久留米大学教授

失業は心理面への悪影響が大きい

カウンセリング体制の確立を！

10月25日に開催された研究会では最初に、失業による健康障害に関する近年の研究レビューがあった。心理面ではうつ、不安、自尊心の傷害、それらの結果としての自殺がある。身体面では高血圧、心筋梗塞、糖尿病などがみられる。ライフスタイルでは飲酒量は変化なしか減少、喫煙量は報告で差があり、ライフスタイルは予想に反して、さほど乱れていなかった。また社会との接触が乏しくなることであった。一番問題なのは家庭経済の悪化であった。総じて心理的影響が大きく、カウンセリング・システムの構築が必要である。失業を長引かせる要因に不安定な職歴、健康障害、大量飲酒が挙げられた。

その後、活発な意見交換があった。失業という事象の経験者を再雇用するメリットを事業主は認識すべきであり、それを受容する社会システムの構築が大切である。家庭生活で父子の対話が生まれた。また失業した男性が“主夫”となって家庭内の役割を果たして夫婦関係が良くなったことで、これは男女共同参画社会実現への第一歩でもある。このような討論から、人生観や労働観を芽生えさせる教育が大切であると結論された。次回研究会で引き続き検討することになった。

「失業とみなした定年退職者の心理」三橋睦子・久留米大学助教授

“退職準備教育”が必須 受け入れ活用法を

第2席は「失業とみなした定年退職者の心理」であった。定年退職という出来事を失業とみれば何が問題なのかを解明するために事例報告があった。60歳定年者で、男女おのおの2名ずつである。共通して言えることは、収入が1/2～1/3に減少していた。

嘱託として再就職した者が3名いたが、職場内での位置が不安定で、雇用者と当人の意識の差から能力を勝つよう出来ていなかった。また職場内の差別意識の存在があった。ベテラン労働者の活用法が下手であることを物語っている。

失業と違い、最低限度の経済的保障があるので心の余裕がみられた。よく言われるように退職2年前頃からの“退職準備教育”が大切で、そこでは退職後の生活イメージ、役割変更、趣味やボランティア活動などで社会とつながりをもつこと、などを取り上げることが提言された。

最近のニュースから

Scandinavian ICOH Expert Workshop 開催さる

去る9月22日にスウェーデンのウメオにて開催された。主題は「失業と健康障害との間を取り持つ機序は何か？」であった。

★ 第3回 International Expert Conference on Unemployment and Health

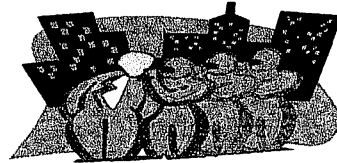
ブレーメン（ドイツ）にて、来年9月23-25日に開催される。本カンファレンスは、第1回が1998年にパリ、第2回は2001年にアデレード（オーストラリア）で開催された。

今回の主題は①失業者の健康状況 ②労働市場の不確実性と被雇用者の健康状況 ③小規模化にみる社会責任 が予定されている。

参加希望の方は、事務局へe-mailを下さい。その後の情報を送付します。

★ 第4回 International Expert Conference on Unemployment and Health

トルコ国イズミル（アテネの対岸に位置する）で2005年に開催が検討されている。主題は先進国と発展途上国との対比で、「失業、不就労、不法労働の健康影響」である。



お知らせ

◆ 次回の第8回研究会は、’04年1月31日（土曜日） 14:00-17:00 です。

* 予定プログラムは

- ・「Work Sharing をめぐって」 西田和子（久留米大学教授）
- ・「生涯健康教育カリキュラムを考える」

石井敦子・五嶋佳子（久留米大学大学院生）

ほか、です。

* 会場は久留米大学医学部・基礎2号館1Fセミナー室です。
ぜひ、ご参加ください。

◆ 今後の開催予定日： 第9回/5月29日、 第10回/10月16日

◆ 本誌 “News Letter” を入用の方は、お知らせ下さい。

世話人： 的場恒孝（代表）・高田和美・酒井 淳・石竹達也・山岡春夫・児玉英嗣

[事務局] 福岡県久留米市宮の陣1丁目1-70（〒839-0801） 宮の陣病院気付

仕事ストレス コーピング研究所内 “失業と健康” 研究会事務局

Fax: 0942(33)8862 Tel: 0942(32)1808 E-mail: kankyo@med.kurume-u.ac.jp